



**tasar**

Japan Tasar Assocation  
<http://www.tasarjapan.org/>

**96**

Tasar News Letter  
Vol.96  
March 2015



Geographe Bay Tasar World Championship 2015 参加 特集号

## CONTENTS

Busselton から Gamagori へ.....	1
豪バッセルトン・テザーワールドレポート .....	2
Tasar World 2015 Report from Geographe Bay .....	4
コンテナ輸送に関するご報告 .....	15
参加者からのコメント .....	17
Result .....	22

## BUSSELTON から GAMAGORI へ

田中郁也

1月2日～9日の8日間、西オーストラリアのバッセルトンで **Tasar World Championship 2015** が開催されました。抜けるような青空、透き通った海と白い砂浜、彼の地は素晴らしい環境でした。日本から参加した7チームは、真夏のオーストラリアを存分に楽しまれたと思います。今回のニュースレターはバッセルトン・ワールド特集です。選手の皆さんのレポートをお楽しみください。

今回のワールド遠征チームのメンバーは20代～60代と幅広く、ご家族を伴っての参加もあり、テザーらしいメンバー構成でした。123艇のビッグフリートで9レースが行われました。コンテナの手配から始まった準備は半年に及び、ミッドウィンター前日のコンテナ到着で遠征が完了しました。その間、輸送業者の選定、輸出入の手続き、宿の確保、現地情報の収集、ユニフォームの作成など、全ての準備をチーム内で分担してこなしました。素晴らしいチームワークとチャレンジに対し敬意を表します。日本チームの皆さん、お疲れ様でした。

次は2年後、蒲郡でのワールド開催です。2017年夏に向けて、新たなチャレンジが始まります。すでに海外向け大会ホームページがオープンし、プロモーション用ムービーも完成しました。バッセルトンでは、このムービーを披露し、日本チームがプレゼンを行いました。これから、「蒲郡ワールド準備委員会」を組織し、具体的な準備を進めていきます。現在、準備委員会のメンバー募集中です。

<http://tasarjapan.org/index.php/jta/notice/92-2017worldsmemberwanted>

日本らしい、特別な“ワールド”を一緒に作っていきましょう。もちろん、たくさんの素敵な思い出も！

# 豪バッセルトン・テザーワールドレポート

1月2～9日、西オーストラリア・バッセルトンのジオグラフィベイ・ヨットクラブ（G.B.Y.C）で「2015テザー世界選手権」が開催されました。参加艇数は122艇で、日本からは7艇が参加しました。大会期間には計測日、練習レース、レイデイも含まれるため、レース自体は5日間9レースが実施されました。（レポート・写真提供／日本テザー協会）

G.B.Y.Cは芝生の上に123艇がすべて置け、目の前の青い海に浜出しですぐに出艇できる最高のヨットクラブでした。白熱したレースの後にヨットクラブ内にあるバーでビールやワインなどを片手にヨット談義が交わされる状況は、海外でのヨットレースならではの楽しさです。

## サメも出現！ オーストラリアの世界選手権

前半2日間は大方の予想を裏切り、3～5m/sで風向も安定した中でのレースでした。しかし、3日目以降はブローでは12m/sを超える風が入るもののラルでは6～7m/sになるという、風の強弱が激しいコンディションとなりました。

特に最終日の2レースは強風の中で風向が突然40度くらい振れてしまうといったとても難しいコンディションでのレースでした。4日目には沖で体長約4mの鮫が目撃され、選手の安全を優先して2レース目が中止されるというハプニングもありました。

今回の優勝者はChris DANCE／Peter HACKETT（AUS）でした。2位は2009年和歌山ワールドで優勝したRobert DOUGLASS／Nicole DOUGLASS（AUS）でしたが、最終日の第8レースでDOUGLASS組が一時逆転して首位に立ち、最終レースでまた同点に並び、結局タイブレイクでワールドチャンピオンが決まるというドラマがありました。

3位は1992年の葉山ワールド（日本）で優勝したJay RENEHAN／Lisa RENEHAN（USA）でした。2013年ゴージワールド（USA）に続いて2連覇を期して参戦したAnthony BOSCOLO／Haley LANE（USA）は5位でした。米国選手はレベルが高く、RENEHAN夫妻は2人とも470級の（元）オリンピック候補選手で、BOSCOLOさんは49erの（元）オリンピック候補選手です。

日本人最高位は18位の山村・吉田組でした。山村・吉田組は同じ稲毛フリートの池田・森組と一緒に毎日1番に出艇してレース前にどの選手よりも多く海面を走って練習していました。しかし、日本ではあまり経験することのない強風下での大きな振れに苦しみました。

レイデイでは、日本選手が集まってバーベキューパーティが開催されました。オージービーフは日本で買えるものよりも柔らかくておいしく、みんな大満足でした。

## 2017年は日本・蒲郡で世界選手権開催

今大会では、次回大会が日本で開催されることから日本人選手による2017年蒲郡ワールドのプレゼンも実施しました。プレゼンと紹介ビデオ、衣装、配布カードなどを入念に準備した甲斐があって、翌日からは「ぜひ次の日本に行きたい」と言ってくれる選手が続出しました。

日本で応援していた多くのテザーセーラーもSNSで配信される各レースの回航順位やリザルト速報、毎日届く選手からの



テザーワールドは2年に一度開催。  
今年も123艇がエントリー

動画やレポートでワールドの雰囲気と一緒に体感しながら、次の蒲郡ワールドに向けて密かに盛り上がり始めました。

2017年7月下旬～8月上旬で開催予定の蒲郡ワールドは、<http://tasarworlds2017.org/>で案内しています。先行して英語版での案内となっていますが、追って日本語版も作成予定です。

関心のある方は、[japanworld@tasarjapan.org](mailto:japanworld@tasarjapan.org) までご連絡下さい。

(Bulk Head Magazine 平成27年1月13日掲載)

### 2015 テーザー世界選手権最終成績

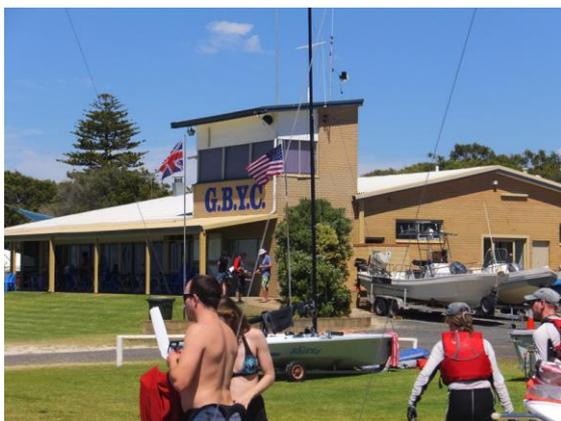
1. Chris DANCE / Peter HACKETT
2. Robert DOUGLASS / Nicole DOUGLASS
3. Jay RENEHAN / Lisa RENEHAN
18. Taro YAMAMURA / Koshi YOSHIDA
36. Yohei IKEDA / Tatsuya MORI
47. Yoshiaki NOJIMA / Kenta TAKAHASHI
59. Toshinori IKEDA / Sumiko AKIYOSHI
64. Haruyuki YAMAMOTO / Tomoyuki MIYASHITA
67. Mahoro SEKIGUCHI / Ryo UEMATSU
114. Hiromichi KAMEYAMA / Atsushi INOE



優勝の Chris DANCE / Peter HACKETT



日本最高順位となった山村・吉田組 (18位)



芝生が気持ち良いジオグラフィベイ・ヨットクラブ



レイデイの日本チーム BBQ パーティー

# Tasar World 2015 Report from Geographe Bay

テザー協会では、2015年テザーワールドのオフィシャルブログを準備。遠征前には参戦するチーム紹介を、そして大会期間中には毎日現地からの情報をアップ。レース結果と一緒に、日本にいるメンバーも楽しめたのではないのでしょうか。現地からのレポートをまとめてご紹介いたします（編集上一部割愛しております）。

## 艇体計測、苦労しました。。

kameyama hiromichi 2015年1月2日 0 Comments

今日は計測デーでした。日本艇は、全艇が計測完了です。  
私はコンテナのダイエット効果と厳しめの計測に苦しみ、3回も測りなおしました。。  
うちだけでなく、多くの艇が68.00kgを超えず（20~30g足りなくてもアウト判定でした）再計測続出でした。艇体に水滴が残っている艇は測ってもらえず、出直し計測を命じられた艇も続出していました。

2593(亀山・井上組)の艇体計測結果(68.00kg以上でクリア)は、  
1回目: 67.56kg・・・稲毛全日本では、69kgだったのに。。  
\*2396(山本・宮下組)も約1.5kg少ない計測結果だったそうです。  
2回目: 67.97kg・・・山本さんからウェイトをお借りして再計測。ほんの少し足りません。  
3回目: 68.03kg・・・数十g分のウェイトを足して再々計測。ギリギリでクリア!

今回の計測方法は、吊り下げ式の電子測りでした。  
\*艇の上部で拡大しているのが、測りの表示部です。



この方法は、吊り下げ式のばね測りや艇置き式の電子測りよりも少なめに軽量されるようです。

クリス・パーキンソンが「俺の艇は和歌山・トーベイ・ゴージのワールドとその間の全ての全豪選手権をパスしたのに、今回だけ80g足りないと言われた」とぼやいていました。  
日本選手だけでなく、すべての選手が苦しめられた今回ワールドの艇体計測でした

# Practice Race

SekiguchiMahoro 2015 年 1 月 3 日 0 Comments

大会2日目は Opening Ceremony と Competitors Meeting、午後には Practice Race が行われました。

Practice Race は青空のもと、北寄りの軽風～順風という最高のコンディションでした。日本チームも活躍でき、幸先の良いムードです。

本日の結果は以下↓

[プラクティスレースの結果](#)

さて、今日はコスプレで出艇した 2014 年全日本チャンピオンのクルー吉田向志さんにデイリーレポートをお願いしました。

本日のイベントはオープニングセレモニー、競技者ミーティング、プラクティスレースです。オープニングセレモニーと競技者ミーティングは時折オージージョークが飛び交い、テザークラスらしい和気あいあいとした雰囲気でした。

周辺海域にサメが出たのでレース海面も厳重警戒中、という話は笑えませんでした・・・



午後はプラクティスレースです。

今日は午前中からかなり振れ回る風でしたが、午後遅くにはここ2～3日吹いていた 250 度の風が入ると予想し、300 度のコース設定でしたが下からスタートして左海面を使うプランを立てました。

約 115 艇が並ぶスタートは壮観・・・しかし、本部船が遠くて見えない！  
一度のゼネラルリコールの後、U 旗が掲揚されての再スタートとなりました。

やはり本部船は見えないけれど勇気を持ってスタートしたのが良かったのでしょうか。1 上を 9 位で回航しました。

その後 4 位まで順位を上げましたが、フィニッシュは 6 位。ちょっとしたミスで直ぐ抜かれてしまいます。ワールドは甘くありません。

明日の本戦からはもっと気合い入れて走るぞ！

2736 吉田 向志

## Day 1 - Race 1 & 2

SekiguchiMahoro 2015 年 1 月 4 日 0 Comments

レース本番が始まりました。

風は振れのある北西の軽風～順風、第 1 レースはマークチェンジもありました。

日本チームは初日からペナルティ履行や、抗議を受けてのアービトレーション(艇対艇のケースの場合、通常の審問の前に実施される仲裁調停)等、苦しい戦いを強いられているチームもあれば、快走を見せるチームもあり、しかしいずれにせよ、ビッグフリートの中で健闘しています。

本日のレポートは 2709 の高橋憲太さんにお願ひしました。



本日は第 1 レース、第 2 レースが行われました。

出艇時は 290 度から 300 度の風が適度に吹いていて、日本人選手には期待できるコンディションでした。

第 1 レースは一度ゼネリコの後、U 旗が掲揚され、多少の緊張感を持ちながらのスタートとなりました。

我々 2709 は下目からそこそこに良いスタートを切りましたが、練習不足がたたりレグを追うことに順位を落とす結果となりました。日本人選手のなかでは池田/森組がシングルに入る快走を見せました。

2 レース目も 1 レース目と同様の風で行われましたが 16 時を過ぎる頃から左よりの風が入り始め、最後は良い風に恵まれてのフィニッシュとなりました。

帰着後はワイナリーがスポンサーについたシャンパンタイムで自由に飲んだり、デイリープレゼンテーションで関口/上松組と野嶋/高橋組がそれぞれ 30 位・40 位のピッタリ賞を獲得したりと、海外ワールドの雰囲気存分に味わっています。

## Day 2 - Race 3

SekiguchiMahoro 2015 年 1 月 5 日 0 Comments

今日はレース後のデイリープレゼンテーションの際に、次回日本ワールドのプレゼンを行いました。



その準備・段取りと、実際にプレゼンを見て日本に行きたい！と思ってもらえるか、気を揉んだ1日でしたが、蓋を開けてみれば宮下久美さんプレゼンターで素晴らしいプレゼンテーションとなり、Movie が終わると拍手喝采、何人ものセーラーに「日本に行くよ」と声をかけられました。さて、本日のレースレポートは以下。

2669 秋吉寿美子さんをお願いしました。

レース2日目、今日は暑い！

40°C以上は有りそう、風は無さそう、着ていくものを一枚減らしいざレースに。

本日も2736（山村・吉田組）が1番出艇でした！

出艇をして直ぐは風弱く(1~2m/s)第3レースは少し風待ちの後に開始されました。上マークは280度、風は3~4m/sのスタートでしたが、1度目はゼネリコでした。次は、U旗が上がりました。U旗が上がると、スタートラインの中央は凹むので、私達はそこを狙ってスタートしました。

123艇のレースでは上マークが果てしなく遠いため、いつもの感覚で走っていると、コース上にある下マークを上マークと勘違いしてしまいそうになります。(現に私達はプラクティスレース時に上マークと勘違いをしました)

そして1上マークが一番の危険地帯です。スターボードのレイライン上に長い3列の隊列が出来るのです！また、ポートでのアプローチする艇の内、数艇が必ずアプローチに失敗しているので、マーク付近は本当に大変な状態です。(前を走っていれば見る事の無い景色でしょう)

ただ、その後はレグを走ってマークを回航する度に艇がバラけていくので、割合とマーク回航がやり安くなります。

第4レースは風が弱くなり、明日以降に延期となりました。

123艇同時のレースは今までに経験をしたことがない楽しい事や恐ろしい事があります。

まだまだレースが続きますので、もっと色々なことを経験出来ればと思います。



## Day 3 - Race 4, 5 & 6

Yoheikeda 2015年1月6日 0 Comments

今日はレイデイ前日の折り返し地点です。昨日1レースしかできなかったのが、運営は3レース消化を目指してやる気十分です。天気予報もよい風が入る予報です。

今日も 2736 山村・吉田組が一番出艇し、2880 池田・森組と走りの調整をしました。



さて、本日のレースレポートは以下。

2880 森くんにお願いしました。

大会も 3 日目に入り、やっとワールドらしい風が吹いてきました。と言っても僕、ワールド初めてですが。

前日の第 3 レースで UFD を叩いてしまった 2880 艇は気持ちを新たにレースに臨みました。

12 時第一予告の本日は、出艇直後から風が抜れたり入ったりでなかなか安定しません。下目から出た 2880 は下アウターの混雑に巻き込まれ、あえなく第一線を離脱。途中挽回したものの、フィニッシュの際不利なエンドを目指してしまい、最終レグ一度はバウを切った野嶋・高橋艇、ダグラス艇に先のフィニッシュを許す結果となりました。

第 2 レースからは強風シリーズに突入。スタート約 1 分前に風が左へ振れ、2880 が待つ上側は一気に不利サイドへと変貌。その後ロングを走りつつ右振れを待つものの、風はさらに左へ振れてしまいどうしようもない位置となってしまいました。



第 3 レースは中盤から追い上げていく中で徐々に先行する艇が減り視界が開けてくのはなかなか気持ちのいいものでした。

やはり強風は気持ちがいいですね。特にリーチングでプレーニングしてる時なんかは爽快感半端ないです。でも 3 レースはもういいです。疲れました。

それでは皆様お疲れ様でした。明日はレイデイということで、明後日以降のレースに向け英気を養いましょう！

## Lay day

SekiguchiMahoro 2015 年 1 月 7 日 0 Comments

今日はレースはお休みで、皆それぞれに休日を過ごしました。昨日までは家族がいたチームも、ご家族の方々はそれぞれの日本の生活に戻り、ほぼレースメンバーだけが残っています。

我々2745 チームは昼から Busselton 観光の目玉スポットである Busselton Jetty を歩いてきました。

南半球一番の長さの栈橋で、約 1.8km。歩くと片道 30 分で往復 1 時間は良いお散歩でした。テザーセーラーも何人かお見かけしました。



Jetty の先でレースエリアを眺めていたところ、急に風が上がったのを感じ時計を見ると 13 時ちょうど。そう、明日のレース予告信号の時間です。レース時間設定に感心しつつ、明日は今日と似た予報なので明日のセッティングを心に決めて帰途につきました。

さて、今回のオーストラリア遠征は私(関口真秀)が諸々取りまとめ役を引き受けています。せっかくのレイデーということで、日本チーム全員に声を掛け、我々が借りている家でバーベキューパーティーを開催しました。



Aussie beef とお握りで、英気を養いました。いざ、後半戦へ！

## 南天の星空

Yoheilkeda 2015 年 1 月 7 日 0 Comments

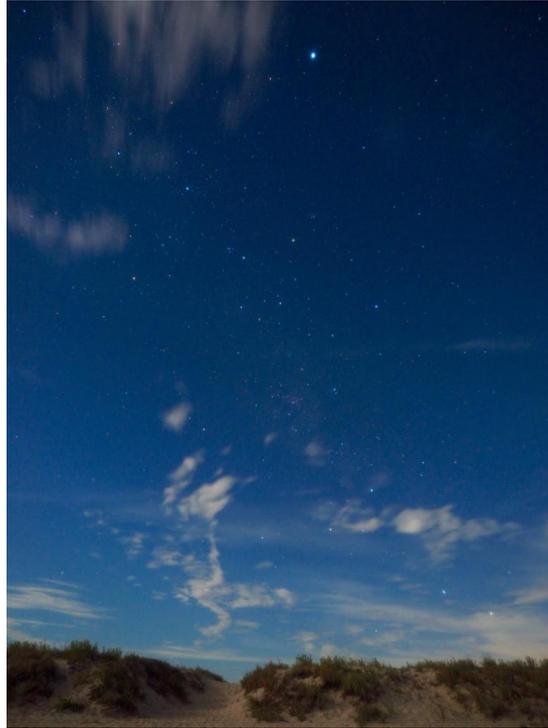
オーストラリアから夏の星空をお届けします。  
あいにく今は月が明るく天の川までは見えませんが、南天特有の星空を見ることができます。

以下、2880 森くん撮影の写真をご覧ください。

### 【南の空】

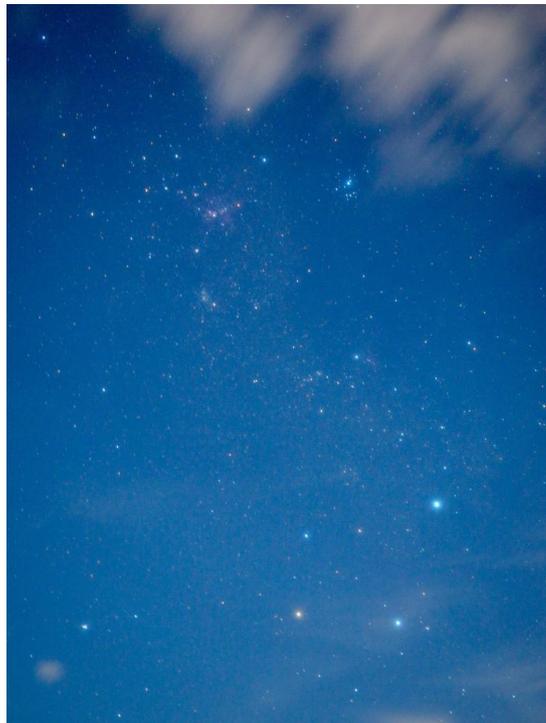
画像中央やや上に写っている十字が南十字星…ではありません。これは偽十字で、画像右下の雲にかかったやや小さい十字が本物の南十字星です。

そして画像の一番右下の黄色がかかった星がケンタウロス座アルファ星です。ケンタウロス座アルファ星は一つに見えて三重連星の星系で、距離は約 4.2 光年。太陽から最も近い恒星です。この星は南十字星と同じく南半球からしか見えません。



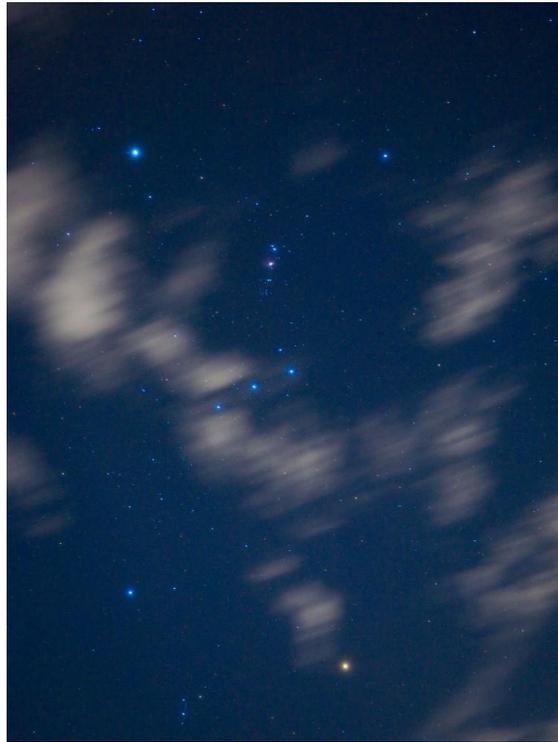
### 【南十字星】

このあたりは夏の南天では天の川の密度が濃い部分です。肉眼でもうっすらと、双眼鏡があれば沢山の星を見ることができます。



### 【オリオン座】

オリオン座は南半球では逆さまに見上げることになります。オリオンの左肩の部分、赤いベテルギウスが反転して右下に来ているのがわかるでしょうか。オリオン星雲も日本よりよく見えます。それにしてもオリオン座の三ツ星を見ているとスタートラインに見えてしまうのは、すっかりワールド病でしょうか。



本部船凹んでるよ！

ということで日本チームはレイデイしっかり休んで後半戦戦います。

## Day 4 - Race 7

SekiguchiMahoro 2015年1月8日 0 Comments

今朝は木々のざわめきで目覚める程、朝からいい風が吹いていました。予報は8~12m/sということで、2レースは確実に実施されるだろうとレース海面に向かいましたが・・・。

今日のレポートは海外ワールドはブーケット以来という2396の宮下さんをお願いしました。



朝から窓を揺らすような風が吹いています。日本チームは昨日のレイデイでリフレッシュしたので、みんな強風でもやる気満々です。

さて、ワールドも残り 4 レース、今日は 2 レース予定されています。今日の風はこれまでと違い南東から、10~12m/s、かなり頻繁にシフトします。我々山本・宮下チームは強風に対応できるはずの体重があるのですが、急造チームでコンビネーションが悪く、このワールド苦戦しています。好調の山村・吉田組、池田・森組が 20 位前後を走り、残りの日本チームは中盤を走るような展開、かなりの強風で沈艇もあるのですが、そこはワールド、中盤以降を走る選手でもみんな早い！！

第 7 レースは山村・吉田チームが 19 位でフィニッシュ。残念ながら池田・森組はフィニッシュ直前でディスマストしてしまいました。

第 7 レースが終わり第 8 レースを待っていると、AP/H 旗が上がりハーバーバック。そこに 15m/s 近いガストが入ってきてこれが AP/H の理由かな？と思いながら必死に帰ると、なんと 5.5m のサメが出現したこともあり、レースが中止になったことがわかりました。半月前に近くで人がサメに襲われ、毎日ヘリコプターを出してサメを警戒しているとか。選手(運営?) の中ではサメの背びれを見た人がいるとも聞きました。沈をしなくて良かった！！

明日、レース最終日、残り 3 レース頑張ります！！

## Day 5 - Race 8 & 9

SekiguchiMahoro 2015 年 1 月 10 日 0 Comments

大会最終日、今までは午後からのレースでしたが、10 時からのレースです。

風の予報は昨日と同じく 8~12m/s ですが、午前からとなるとどのような変化があるのでしょうか。今日は 2745 の上松慮生さんにレポートをお願いしました。



“G’ day” の挨拶から始まる日々もついに終わりを迎える最終日、風の予報は昨日とほぼ同じで、朝から強めに吹いている南寄りの風が昼にかけて少し落ち、その後だんだん強くなるというものです。ただ、風の強さは昨日より少し落ちるとのこと。

我々は最終日にしていつも使っているジブタックのソフトシャックルが見つからず、仕方なく予備のシートで艀装をしますが長さが中々決まらず、出艇が遅れてしまいました。山村・吉田艇が毎日 1 番

出艇していたように、我々も米国の某艇の次に出艇して彼らの華麗な出艇動作を観察することを日課としていたのに、最終日にきてそれが途絶え、幸先が悪い感じです。

さて、第8レース。我々はいつもの場所（スターボードアウターの端で1線の後ろ）からいつもの時間（スタート後15秒くらい）にスタートラインを切ることを目指しますが、今日は普段見ない顔がたくさんで大盛況です。が、我々のプランはあくまで1線の後ろなので落ち着いてゆっくり出ます。皆さんお先にどうぞ。

風は予報通りですが、いかんせん強弱とフレが激しくて走りづらいことこの上ないです。後ろから見ると上位陣でも激的なフレでオーバーヒール沈、アンヒール沈と上りのレグはさながらサルガッソー。

下りのレグでも強烈なフレに翻弄されながらなんとか無事にフィニッシュできましたが順位は70番くらいか、いや、もう少し上か、120艇もいるとフィニッシュ順位もよくわかりません。

そして、第9レース。予報通り風が落ちてきたと思いきや相変わらずの激的なブローです。我々はやはりいつもの場所からいつもの時間にスタートラインを切ることを目指します。が、スタート2分前に事件が起こります。おりからの強烈な強弱とフレにやられて痛恨の沈。

昨日はホオジロザメが遊びにきたことによってレースが中止になっているような海面、スタートに間に合う・間に合わないを抜きにしても、いち早く起こさないと新聞沙汰だけはごめんです。焦りすぎたのか1回目は沈起こしを失敗してしまいます。運営艇が様子を見にきますが、我々は「ノープロブレム、シャークもいません、怖くありません！」と満面の笑みで応答します。2回目ですっかりと沈を起こし、皆のスタートを観戦しながらラインに向かいます。うーん相変わらずだいがへこんでいますなー。

相変わらずのフレと強弱に振り回されながら、しかし、一番後ろから見ているとその激しさがよりいっそうよくわかります。我々は1艇1艇抜いていく、ということではなく、フレでがっつり抜いたかと思えば、逆のフレでばっちり抜き返されるということを繰り返しながら上マークは100位前後か。

その後、リーチングでチャイニーズジャイブを見せつけて逆走をしたり、上りでTボーンをくらいそうになったりしながらも無事に岸に近いフィニッシュラインを切ります。順位は80番くらいか、いや、もう少し上か。120艇もいるとフィニッシュ順位もよくわかりません。

本日のレースはこれにて終了。そして、これをもって本レガッタも終了です。

最後のレースはドタバタしましたが楽しくレガッタを終えられたので大満足のオーストラリア遠征でした。

## 祭のあと・・・

SekiguchiMahoro 2015年1月10日 1 Comment

今日は朝から集合してコンテナに積み込みも完了し、あとは日本で艇を受け取るだけとなりました。作業が終了したところに、今回の大会で優勝したChris Dance & Peter Hackettチームが日本のコンテナに現れました。

是非、次回日本のワールドにも来たいし、特にヘルムのChrisはプレワールドにも是非来たい！とのこと。

そしてプレワールドではクルーも募集したいという話でしたので、ワールドチャンピオンとレースに出られるチャンスが日本人の誰かに！！



海外ワールドに来てレガッタが終わると毎回思うのですが、もっと練習してもっと速くなりたい！とやはり今回も思いました。

それぞれのチームがそれぞれに悔しい思いをしたり、打ちのめされたりしながらも、何かを見つけ、そして2年後に向けて意欲が高まったと思います。

今回のワールドには行けなかったけれど海外遠征・海外レースに参加したいという方、ワールドで物足りなかった方、今年の9月末～10月頭にかけて Townsville, Queensland で全豪選手権が開催されるとのことです。オーストラリアの中でも日本に近い場所ですし、ローカルなレースを体験出来るのではないかと思います。(チャーター艇の有無などの情報はありませんが・・・)

今回のワールド開催地は元々テザーの活動があった場所ではなく、今回のレガッタに向けてテザー活動が始まったヨットクラブとのこと、またオーストラリアの中でも離れているエリアでの大会でした。次回の蒲郡ワールドも現在はフリートが無いエリアですが、今回大会 123 艇が集まったことは次大会を盛り上げる励みになりました。

最後に、日本チーム集合写真(数名いませんが悪しからず)でこのレポート最終回としたいと思います。



## 1. 行き先とスケジュール

今回の行き先は、大会会場だった Geographe Bay Yacht Club (1 King Street, Busselton W WA 6280)。コンテナ会社 (西濃シエンカー) からクリスマス前に豪州にコンテナ到着させることを強く勧められ、通常よりも早めに日本からコンテナ発送しました。今回のスケジュールは、下記の通りでした。

- 日本での積み込み : @稲毛ヨットハーバー  
11月4日(火) 8:30 集合。コンテナ作業は 10:00~14:00 (4時間)。
- 豪州での積下ろし : @G. B. Y. C  
1月1日(木) 13:00 から開始。1時間半くらいで作業完了。
- 豪州での積み込み : @G. B. Y. C  
1月9日(金) 3時間 (6艇の壁固定を完了)、10日(土) 2時間。
- 日本での積下ろし : @稲毛ヨットハーバー  
2月21日(土) 9:30 から開始。1時間弱で作業完了。

## 2. 現地のコンテナ置場

Geographe Bay Yacht Club では、艇置き場のすぐ裏に多くのコンテナが置かれていました。日本からの 40ft コンテナ (7艇) と米国からの 50ft コンテナ (5艇) 以外は、すべて豪州の国内輸送です。



奥に見える白いコンテナが日本コンテナです



10本強のコンテナが置かれていました。(一部は陰に隠れています)

## 3. 積み込みの手順と様子

コンテナに艇を積み込むのは、何回経験しても大変です。今回は7艇でしたので、6艇を壁面に固定して、残りの1艇を床置きにすることにしました。前回(2013年)のゴージワールド(アメリカ)の時は10艇積んだため、コンテナの天井面にも艇を固定しました。この時に比べると作業はし易かったのですが、それでも4時間かかりました。

コンテナに艇を積み込む時は、【艇・備品・荷物の準備】 ⇒ 【艇固定】 ⇒ 【備品・荷物固定】という順序で行います。備品とはマスト・セール・船台、荷物とはチームが持ち込むセーリング用品(衣類など)が入ったバッグなどになります。

それでは、日本で艇を積み込んだ時の様子を、写真でご紹介しましょう。

## \* 積込前の準備



\* 艇は凸部を保護し、緩衝材を付けます。



\* 備品と荷物は、個数を確認してから積みます。

## \* 積込開始



① コンテナが空の状態です。広いです。



② 1 艇目 (左奥) を固定しています



③ 2 艇目 (右奥) を固定します。



④ 3 艇目 (左中)。慎重に間隔を見極めます。



⑤ 5 艇目 (左手前) を固定しました。ここで、扉が閉まるか、確認します。



⑥ 壁面への艇固定 (6 艇) を完了し、荷物を積み込んでいるところです。



⑦セール、マストも積みます。  
航海中に動かないようしっかり固定します。



⑧一番手前に7艇目を床置きで固定します。



⑨船台のタイヤとビールケースを載せれば、  
積込完了！



⑩豪州に向けて、行ってらっしゃ〜い！

#### ワールド豆知識

#### 自艇参戦（コンテナ輸送）に欠かせない *ATA カルネ*

ATA カルネとは、ATA 条約に基づいた「一時免税通関書類」です。ワールド参加に際して、艇や艀装品、またセーリング用品や工具などを海外へ送る場合、ATA カルネを利用して「一時持ち込み」扱いにすれば、出入国の際の通関手続きを簡略化することができます。

カルネを利用する際のお約束は、「持ち込んだ物をそのまま持ち帰る」です。渡航先に置いてきてしまうと「輸出した」とみなされることもあります。また、渡航先で買った物を持ち込む場合は、カルネに記載されていないものを「輸入」することになりますから、物によっては別途関税がかかることがあります（レースの賞品とかにも！）。もちろん、食糧などの消耗品は対象外となります。

ATA カルネの発給申請は申請書類とともに、持ち込む物品のリスト、およびそれぞれの価額をまとめた総物品表を提出しなくてはなりません。ちなみに物品の総価額は、コンテナで送る荷物にかかる海上保険の基準額にもなります。そのため、備品・荷物の数を入念にチェックしてから積んでいます。

## ワールドに行ってきました！ ～参加者からのコメント

### 池田敏則・秋吉寿美子(2669) ……3回目のワールド参加で初めてづくし？

今回のワールドは、3回目の参加となりますが、全ての手続きを自分達でしたのは初めてでした。団長に色々教えて貰い、ご迷惑をお掛けしつつも、何とか完了する事が出来ました。

私達はこれまでに、イギリス（ウィスタブル）・アメリカ（ゴージ）オーストラリア（バッセルトン）のワールドに参加をしましたが、今回のオーストラリアが一番楽しかったです。テーザーの母国と言う事で、参加艇は過去3回の大会の中で一番多かったです。レース内容は納得で出来る走りが出来たり、出来なかったりでしたが、強風での練習が足りないことを痛感しました。また、ケースの経験から、もう少しルールの勉強をしておくべきだったと思いました。

バースの両隣の方（ご新婚のカップルと親子の方）に仲良くしていただき、色々なことを教えて貰いました。この様な交流は、今回のワールドで初めて経験できました。アメリカ（ゴージ）で池田さんがお友達になったオーストラリアのご夫婦と再会出来た事も良い思い出になっています。

### 野嶋嘉昭(2609) ……最高のロケーション！

今回のワールドは稲毛全日本から参加の急造チームで挑みました。全日本では24/31位と（高橋は2008年全日本優勝クルー）お互い失意のキャンペーンスタートでした。

前半5レース（順風以下）

個々の体力作りを糧に挑むチームには風が弱く拍子抜けでしたが、シングルで回航すると運営のツイッターに載ると聞いて、一上シングルを目標に設定スタートラインは広いしU旗が上がるとラインが低くなるので特に攻めました。

一レース目、ダグラス（総合二位）と絡み×（船が多すぎて選手を把握しきれない・・・）

三レース目、スタボアアプローチで7位、しかし下振れ二回で×

四レース目、スタボアアプローチで8位、マークまでとても長く感じましたがそのままシングルで回航○

リーチングは日本のレースでも速くないので省略。

後半4レース（強風）

10m/s以上吹いてきて20、30°当たり前、時には40°以上振れるとてもファンキーな風、目標は沈をしないに変更。チームとしてだいぶ慣れてきてクローズでは最後には振れを楽しめましたが、ランニングはかなりの恐怖でした。

とび賞で大きいバックとポーチがもらえ、総合47/123位と全日本と比べると割と良かったです。日本のレベルが上がっているという事でしょう。

最高のロケーションでレースができました、ワールドに携わった全ての方に感謝します。



2014年11月稲毛全日本のパーティーで「ワールド遠征団長」というお役目を誰からともなく任命されました。しかし2013年ゴージャワールドで次回ワールド開催地が発表された時から、例えクルーがいなくとも、自艇で出場できなくとも、現地には絶対に行く決めていた私。実は任命される前から、参加者とりまとめ係・保険係・VISA申請係等々自主的にやっていて、単に「雑用係」が「団長」に格上げ(?)されたという話で・・・(笑)・・・何はともあれ、遠征メンバーが現地でなるべく困ることのないように。という任務を正式に遣わされたわけです。

さらに次回蒲郡ワールドの開催告知がうまくいくように、日本で応援してくださっている方々にタイムリーでリアルなレポートを発信できるように、と、遠征団長任務+JTA理事・ワールド広報チームの一員として、海外遠征マルチタスクを遂行してきました。

※私だけでなく今回の遠征メンバー全員がコンテナ係・チームウェア係・蒲郡ワールドプレゼン係・デイリーレポート執筆等の役割を担い、それぞれがレースと両立して参加してきたのは言うまでもありません！事後はコンテナも無事に到着し、ワールド報告会も開催して、やっと団長任務終了・・・というところで、この「団長レポート」執筆依頼。出し尽くした感あるところに何を書けばいいのやら・・・と途方に暮れ、テザーワールドを別の角度からレポートではない私の物語として書くことにします。という長い前文ですみません。

私がこのワールドに、何があっても絶対に現地に行くという思い入れがあった理由。それは私が初めてテザーワールドに参加した1999年浜名湖ワールドまで遡る長いお話・・・

テザーセーラーの中で知っている人は知っている話でもあるのですが、ちょうど10年前の2005年ダーウィンワールド(前回のオーストラリアワールド)に参加した後、私は現地で車を入手し、約1年間ぶらぶらと放浪生活をしていました。レガッタ終了後に一番初めにお世話になったのは、コンクリート製のセーリングクルーザーに住む船大工のおじいさん Tony のところでした。クロコダイルが生息するマングローブ林の川に係留したクルーザーにステイし、雨の日はシャワーも浴びられずに船内に閉じ込められ、晴れたらセールを上げてクルージング、一晩で蚊に100か所以上刺される、という船生活を体験したのです。



このおじいさんと私のつながりは、彼の息子 Phil が1997年浜名湖ワールドにオーストラリアチームの一員として参加したことから始まります。Phil とは浜名湖ワールドで出会い、ワールド後に日本国内を旅行するという彼を東京の私の実家に招き、当時は1週間ステイしてもらい親交を深めました。それから始まって彼の親戚が日本に来る時にはホームステイをしてもらったり、Phil の結婚式には私の家族が招かれたり、と、



今でも家族ぐるみの付き合いが続いています。さて、そんな縁で、2005年にはダーウィンに住む Tony が私の世話をしてくださり、とっても自由なライフスタイルを見せてくださったという話ですが、先にも記述の通り、私はその後キャンプ生活で移動しながら西オーストラリアを目指しました。

西オーストラリアは言うまでもなく、インド洋。毎日シーブリーズがぶん吹いていましたが、それはさておき、ちょうど西オーストラリアの中央に位置する町に住む Phil のお姉さん Sarah のところでも、とてもお世話になりました。

※この家はリビングからインド洋が一望でき、家に居ながらにして双眼鏡でホエールウォッチングが出来るという環境でした。

また、この一家とは異なりますが、ワールド期間中に開催した日本チーム BBQ で Ausie BBQ マスターとして登場してくれた小学校時代の友人 Miki の嫁ぎ先でお世話になったりと、私はたいそう人の縁を頼ってずいぶん楽しい生活をさせてもらいました。

アシカと泳いだりしながら結局私は半年以上西オーストラリアで過ごしましたが、当時かなわなかったのがインド洋でのセーリングでした。私がいた町は日本に輸出する伊勢海老漁の町でしたので漁船はありましたが、ヨットを見たことのある漁師さんはまれでした。毎日決まって吹くシーブリーズがもったいなくて、一人乗りのディンギーでも欲しいとパースのヨットクラブあちこちに足を運びましたが、結局時間切れとなり西オーストラリアをあとにし、東へと向かい最終的には帰国したわけですが、

・・・東海岸到着後にはシドニーでテザーセーラーの Ken さんの家で2週間ほどお世話になりました。シドニー湾でセーリングもしました。Ken さんお元気かしら・・・

とにかく、オーストラリア滞在中の大半を過ごした西オーストラリアでの「テザーワールド」は、インド洋でのセーリングを経験することとお世話になった人たちに会うためにも行くべきものであり、このつながりが一番初めに作ってくれた Phil のように、また新しいつながりがどこかで生まれたり・・・という気持ちもあり、とにかく行かない選択はなかったのです。

そういう訳で、勤め先の多大な理解（計3週間の休暇）も得て、大会10日も前にオーストラリア入りし、キャンプをしたり、たくさん時間を友人達と過ごすことが出来ました（友人達はバスセルトンまでレースを見に来てくれました）。

大会期間中の話は公式レポートに掲載していた通りです。

一生懸命遊んでいることで、日本国内にもそれ以外でも素晴らしい友人との出会いをいただきました。ヨットーそれもテザーーを始めて、そして細々とでも続けているからこそその経験をできて、自分や家族や周囲にヨットを続けられる環境があること、友人達、セーラー仲間、本当に感謝しています。

そういうことを色んな人に味わって欲しいと、私が団長になることで少しでも何かできればと思いましたが、それは全くのうぬぼれでした。

遠征メンバーは皆それぞれに思いを持ってワールドに行き、色んな人達と出会ったり再会して親交を深めたり、素晴らしい体験をしたのだとみんなの話を聞いて思いました。

そして、だからこそ、もっともっとたくさんの日本のテザーセーラーにワールドの楽しさを（楽しさだけでなくこともあること含めその体験を）、経験していただきたい！

毎回毎回ワールドでは、レースでの経験も楽しくて得るものがありますが、参加することで得られる世界と楽しさがあるのだということをお伝えしたく、それを今回の団長レポートにしました。自分よがりな文章ですが、お伝えできていたら幸いです。

最後に、日本からの7チーム・同行して日本チーム盛り上げてくださったご家族の方々・現地まで来てくださった田中夫妻、楽しかったね、また行こうね。



そして日本から暖かく送り出してくださった遠征メンバー全員が関わるそれぞれの会社の方々や家族の方々、ありがとうございました。私たちは筆舌に尽くしがたい程のきれいな海で、超楽しいレースを体験してきました。えへへ。

日本で応援・サポートしてくださったテザーセーラーの皆様方、ありがとうございました！！

しかし、個人的には拍子抜けするほどトラブルの無い海外遠征でした。盗難、体調不良や艇のトラブルが何もなく、途中でこれから何が起るかとヒヤヒヤするほどでした(笑)

さあ、次は日本ワールド！

これからテザーを始める日本のセーラーもたくさんいるでしょう。初めて日本にくる外国人セーラーもたくさんいるでしょう。色々な方々にこれから出会えるのが本当に本当に楽しみです！

### 田中 紀子……また会えたね、がうれしい

今回はレースに参加できませんでしたが、ワールドカウンスルに主人（郁也）が出席するためにドライバーとして同行し、Busselton に行ってきました。ウェルカムレセプションに顔を出すと…、いるいる、あの人、この人、お馴染みの顔、お久しぶりの顔……。エントリーリストに名前がない TANAKA の出現に、びっくりする人もいてくれて、ちょっとうれしい。そして、同じく選手ではないけれど、オーストラリア協会の終身会員となっている、Duncan Robertson とその奥様 Noelle そして Ian Guanaria（90 年代後半のチームメジャー）との再会にも感激。Duncan 夫妻とはブーケット以来かな、Ian とは 2001 年のイギリス以来では…？初めてお会いした、98 年、99 年頃の思い出をあれこれ話して楽しい時間が持てました。

最後にエントリーした（123 艇目）チームが Bill Quinn だと聞き、これまた懐かしい再会。Bill は 90 年代に西オーストラリア協会（WATA）の会長を務めた方で、私たちが 1999 年にパースで行われた全豪選手権に参加した時には、艇の準備やエントリーなど、あれこれと助けてもらいました。その彼と 2005 年のダーウィンの世界選手権で再会した時、紹介してもらったパースの若いチームが Kayne Binks と Luoise Blagrove。彼らは 2007 年のパースでの全豪選手権を盛り上げたのち結婚。Louise が第 2 子出産間近ということで、今大会ではサポートメンバーとして活躍していました。わたしたちも大変お世話になりました。この二人に再会できたこともうれしい出来事でした。

そして何よりパースといえば、この人、Akiko Todd(旧姓：浅貝)さん。日本テザー界の女性ヘルムスマンの草分け的存在です。89 年のバンクーバーワールドに参加。そこで David Todd さんと運命の出会いをし、その後結婚。パースで 25 年近く生活されています。私たちが 99 年にパースを訪れた際も、吉川さんや小沢さんから紹介をいただき、2 週間近い滞在中には何度かご自宅にお招きいただいたりドライブに出かけたりと、大変お世話になりました。「次にパースに来る時は、マーガレットリバーでワイナリー巡りをしましょうね」と約束してお別れしたのに、今回の渡豪では連絡もしないでパースに降り立ち、不義理ですみませんっ、と心の中でお詫びしていたところでした。が、なんとびっくり。Geographe Bay Yacht Club で再会を果たせるとは！クルーザーを乗りこなすための勉強中ということで、相変わらずお元気でハツラツ、すてきな Akko さんでした。そんな約束したわね、じゃ、今度は必ず…、と。でも次に会えるのはどうやら来年のプレワールドになりそうです。



「また会えたね」、が、うれしい、テザーとともに在る小さな幸せ。これからも大切にしたいと再認識した Busselton での 3 日間でした。

# Result (抜粋)

Pl	Name	Sail Num	Bow Num	Country	Race Number									Points		
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	Total Points	Net Points	
1	Chris DANCE Peter HACKETT	2858	117	AUS	3	5	1	1	6	-11	3	-11	8	49	27	M
2	Robert DOUGLASS Nicole DOUGLASS	2848	27	AUS	5	3	2	-20	4	4	8	1	-25	72	27	M FL
3	Jay RENEHAN Lisa RENEHAN	2916	97	USA	1	-8	-14	4	8	8	4	5	3	55	33	GM FL
4	Aaron LINTON Jamie JOCHHEIM	2799	105	AUS	16	2	-23	-124 DSQ	1	6	2	8	1	183	36	
5	Anthony BOSCOLO Haley LANE	505	33	USA	4	12	-20	3	2	-25	14	2	11	93	48	FL
6	Hugh TAIT Tara MCCALL	2925	81	AUS	7	10	-27	5	-11	3	7	10	6	86	48	FL
18	Taro YAMAMURA Koshi YOSHIDA	2736	73	JPN	18	26	16	-124 DSQ	10	22	19	27	-38	300	188	
36	Yohei IKEDA Tatsuya MORI	2880	85	JPN	9	15	-124 UFD	23	57	34	-124 DNF	29	57	472	224	
47	Yoshiaki NOJIMA Kenta TAKAHASHI	2709	74	JPN	40	51	38	22	-60	-55	55	36	42	399	284	
59	Toshinori IKEDA Sumiko AKIYOSHI	2669	37	JPN	34	56 SCP	37	46	71	-124 RET	44	75	-92	579	363	GM FL
64	Haruyuki YAMAMOTO Tomoyuki MIYASHITA	2396	86	JPN	72	73	30	41	62	58	-77	47	-88	548	383	GM
67	Mahoro SEKIGUCHI Ryo UEMATSU	2745	32	JPN	30	55	49	55	-94	-78	62	63	75	561	389	FL FF
114	Hiromichi KAMEYAMA Atsushi INOUE	2593	30	JPN	46	58	-124 DNC	-124 DNC	124 DNC	124 DNC	124 DNC	124 DNC	124 DNC	972	724	